



## OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／大橋正明
- 副会長／宮坂 伸・小口俊光
- 幹事／牛山幸一
- 会報・雑誌・広報委員長／白鳥修次

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F  
Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL:<http://okayarc.org>・E-mail:[okayarc@amber.plala.or.jp](mailto:okayarc@amber.plala.or.jp)
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2386 回例会 2008 年（平成 20 年）5 月 27 日（火）

司 会：藤森睦美 斉 唱：それこそロータリー  
点 鐘：大橋正明 ラッキーNo.：No. 3 藤森睦美  
表彰 ポールハリスフェロー：大橋正明・宮坂宥洪

### 会長挨拶

聖路加国際病院理事長の日野原重明先生の「海外の小学生から学んだこと」というコラムにこんなことが書かれていました。先生は日本で小学生を相手に「いのちの授業」をしています。海外でも同じ内容の授業をしているそうです。

「いのち」とは心臓や寿命のことではなくて君たちが持っている自分の為に使える時間のことなんだよと説明するそうです。そして自分の持っている時間を自分のためだけでなく、人のためにどれだけ使えるかが自分の命を充実させることになるのだと言います。

米国やオーストラリアの小学生と日本の小学生とは大きな違いがあるそうです。それは、質問を投げかけたときの反応です。外国のこどもは、ためらいなくさっと勢いよく手を挙げます。しかし、日本の子どもは、左右友達の様子をうかがってから少しずつ手を上げるのです。日本の子どもは自分から進んで発言する訓練をほとんど受けていないことが影響していると言っています。言われてみればその通りで社会人になっても私自身とても苦手な世界です。

日本を代表して国際社会で胸を張り発言できるような人材を育てるには、小さなときからそんな訓練が必要なのでしょう。

### 幹事報告

- ・ 次週例会のクラブフォーラムの中で 50 周年実行委員会の各委員会ごとの打合せを行います。

### 委員会報告

ロータリー情報委員会 本日 6:30 岡谷パークホテルで会員セミナーを開催します。出席対象の方は宜しくお願ひします。

社会奉仕委員会 諏訪湖一斉清掃 6/1(日)午前 6 時 集合 体育館南側湖畔公園  
ご協力よろしくお願ひします。



## 卓話「中国出向」

中嶋 孝一 会員

昨年9月に入会させて頂きました。昭和39年生まれの44歳です。会社の概要をお話ししてから、私が中国に出向した時の話をしたいと思います。

会社は長地で株式会社 中島製作所という精密部品加工業をさせていただいております。従業員は56名です。大正13年に祖父が達磨式ストーブの製造を始めたのが始まりでございます。石炭を入れてなかなか火がつかないのをいかに早く燃焼させるかの工夫をした祖父の苦勞話を子供の頃良く聞かされたのを思い出します。

次に叔父にあたります中嶋富雄、よく年配の方々とお話をすると、富さの思い出話を聞かされます。かなり豪快な人だった覚えがありますが、子供の頃遊びに行くといつも正座をして、手には日本刀を持って口に紙のような物をくわえ、耳掻きの後ろについているような毛綿みたいなやつで刀をポンポンたたいて手入れをしていました。その後ろには黒くぶきみな鎧兜がおいてあり、すごく怖い印象が残っています。次に私の父、中嶋斐男になり私の代で恐怖の4代目となりました。

そんな事でストーブの製造より始まり、その後金属プレス部品、金型加工を手がけるようになり、昭和36年に法人となりカメラ、時計部品等のプレス加工に着手しました。この頃になると金型加工の加工技術を活かし部品加工を徐々に手がけるようになりました。この頃はカメラや時計等今のように電子部品では無く精密な機械仕掛けで構成されていてプレス部品の需要や精密部品加工の需要が非常に多かったようです。今ではモールド部品すなわちプラスチック型部品になってしまった物がほとんどですが当時はカメラの外枠、フィルム押さえ又、時計の枠など様々な部品をプレス加工でつくっていました。

昭和38年に医療機分野、主に内視鏡関連のパーツ作りに着手しました。胃カメラや大腸ファイバー等の先端部分の製造やカメラの先端に取り付けて腫瘍を切り取るカンシという刃物、医師がファイバーカメラを操作する運転部を手がけ始めました。

内視鏡の原理はいたって簡単な原理で、昔竹でできた蛇のおもちゃをご存知の方もいらっしゃると思いますが振ると上下、左右に動く原理でそれを当然体内に入る部分ですから超精密加工したものと思っただけならば分かりやすいと思います。先端のカメラが取り付け動く部分にワイヤーが何本かつなげてあってワイヤーを引っ張って先端を自由自在に動かす原理です。内視鏡にもたくさんの種類があり太い物で1cm、細いもので2ミリくらいのものであります。

昭和43年に複写機部品、プリンター部品の製造を始め、昭和53年には電動工具部品の製造に着手致しました。本格的に精密切削部品を始めたのは昭和56年に実装機部品、チップマウンターと呼ばれていますが、電化製品やパソコン等々に使われているプリント基盤上にコンデンサーやチップ等の電子部品を高速で装着する機械の主に指や爪にあたる部分の部品製造を始めました。こうしてプレス部品の製造と

精密機械部品の製造を両立させて昭和の時代をなんとか凌いだといった所です。

平成6年、香港に会社を設立いたしました。きっかけは日本で取引いただいていたプレス部門の大手3社の親会社が組み立て工場の拠点を中国で行うといった事で、やはり現地にての部品調達に切り替えるにあたり、いずれは中国での生産に切り替わるという事で当然日本の売り上げに大きく影響を与える事となる事と、もうひとつは国内での金属プレス部品の需要が減ってきたと言う事です。

何故かと言いますと、先程も少し触れましたが、カメラ、時計を始め様々な製品が金属よりプラスチックに変わっていった為でございます。ここで本社で行っていたプレス部門を中国に移すといった中国進出の決断をしました。

話が前後してしましますが中国で生産工場を作り部品を中国の親会社に納めるのに何故香港に事務所をかまえなければならないかと言う疑問をお持ちの方もいらっしゃるかとおもいますが、当時は地域にもよりますが広東省は中国国内で購入した材料で生産した製品は良いのですが、海外から輸入した材料で生産した製品は一度中国国外に輸出する必要があったからです。

それなら中国で材料を買えばいいじゃないかという話になりますが中国製のプレス材料は材質の中に不純物が混ざっていたり材料の厚みがばらついたりして全く安定しない材料で、それで加工しますと金型が壊れてしまう粗悪な材料でしたのでどうしても日本製の材料を輸入する必要がありました。

もう1つは広東省華南地区に進出している殆どの企業は香港に拠点をおいていたので営業がやり易く、経理的な処理もやり易かった事があります。

ここから中国の話にはいっていきます。

平成6年に香港の会社を設立しましたが、当然ながらそれ以前に中国での生産工場の設立の用意も平行して始めていました。準備段階では誰が責任者としてあちらに行くんだろうと思っていましたが、案の定1年間でいいから行って立ち上げてこいと言う事を命令されました。訳のわからんうちに香港、中国の総経理と言う立場にまつりあげられておりました。

この時上の子が2歳、下の子が産まれたばかりであったので、はっきりいって非常に悩みました。しかも中国側での合弁会社と工場の場所だけは決まっていたものの後は何1つ決まっていない中でのスタートでしたがこれも与えられた運命だとあきらめて中国行こうと決心しました。1年間の約束が足掛け4年に延長されようとはこの時点では予測もしませんでした。

会社の形態は合弁企業で先に香港に設立した香港中島有限公司と中国の企業吉星実業有限公司という扉やシャッターを製造している会社と合弁しました。

場所は広東省広州市です。日本からの移動手段は名古屋空港より香港へ移動して香港のセントラルより船で2時間30分と車で約45分の場所にあります。現在では白雲空港に直接移動できるようになり大変便利になりました。

広州市は広東省華南地区の行政の中心地で人口約713万人、ただし流動人口が500

万人と推定され 1200 万人とも 1300 万人とも言われていまして北京、上海に次ぐ中国 3 大都市とされており、いろんな意味で活力がみちあふれています。私も何度か広州駅に行った事があるんですが非常に古い駅で、駅前には毎日田舎から仕事を求めて広州へ来る人、仕事も無くお金もなくなってしまい浮浪者となる人でごった返しており、犯罪が非常に多い都市です。

その悪名高い広州市内より南へ走る事 30k の場所にある広州市番禺区と言う所に工場があります。広州市内より 30 キロしか離れていないのに別世界で 15 年前は度田舎で道路は舗装されていないしまだ牛がリヤカーを引っ張って歩いているような状況ですので日本食などある訳も無く酷い所に来てしまったものだと後悔しても遅く何度か出張ベースでは行っていたんですが、現地に生活する事の違いを思いしる事となりました。皮肉な事に今現在は大都会と変貌して第 2 の広州とも呼ばれています。ちなみに平均気温 23℃、夏の平均は 39.3℃湿度 98 パーセントでした。1 年中クーラー及び除湿機を回しっ放しでした。

最初の半年間はホテル住まいでした、現地では安全性も考えてわりと良いホテルに宿泊していましたが、1泊 400 元、今の日本円で 6500 円程で、出向した日本人 3 名で宿泊すると月に 60 万とクリーニング代など含めると 80 万程になりバカにならないとスケベ根性をだしてその後マンションに移りました。マンションはガードマン付きで月々の家賃が 3000 元程で 12 畳のリビングと 6 畳の部屋が 3 部屋と 4 畳ほどのキッチンがついていて快適でしたが部屋に入るまでに 4 つの鍵が必要で少し酔っ払って帰ると部屋に入るまでが一苦勞でした。

こういった場所に赴任して工場立ち上げにあたってはやはり先に進出していた日系企業様が大変助けられた事を忘れません、建設場所の整備、行政との交渉、建物の打ち合わせ、機械搬入の手続き等の準備を終えよいよ工場建設も終盤となり日本からプレス機械が輸入され搬入が始まった訳ですが幾度ともない工事屋との打ち合わせにもかかわらず機械を工場内に搬入しはじめたとたん床が沈み始め土台のやり直しといったこともありましたが、結局やり直し代金はこちらで負担する事となりました。まったく信用できない工事屋さんの話です。

日本より機械や付属製品が届きコンテナを降ろし始めると人だかりができてきました。近所の人が集まって来て降ろすのをずっと見ています、降ろし終わっても帰らないうす暗くなり始めても帰らない、何故だろうと思っていたんですが、コンテナから降ろした木箱を解体したとたんわーと集まってきて集まるというより群がるといった表現が正しかと思いますが一歩引きながらこれはやばいぞ部品やその他の付属品が盗まれると思いきや群がりの中から一人二人と出てきて、良く見ると手には梱包されていた木やベニヤ板を持って走り去って行きました。

目的は梱包材の木や釘、エアパッキンだったんです。人だかりがなくなると綺麗に釘一本無いんです。掃除しなくていいんです。後で聞きますとこれが高く売れるらしく近所の方々には大変喜ばれ大人気でした。

こうした事を繰り返しながら搬入も終わり各手続きも終了して一応工場は稼働でき

そんな状況となりそれから従業員の募集にかかる訳ですが通訳、法関士、会計士、運転手は先だって採用していましたが実際工場で働くワーカーさんを採用しようと言う事で当時は日本で言うハローワーク的な所も無く人のツテや紹介等の方法で従業員を募集しなければならない状況でしたので、ある日系企業さんの紹介で江西省の中部、東寄り位の所に人口 150 万人位の新余市と言う場所に優秀なワーカーさん従業員を紹介してもらえ人があるという事で広州の空港から 1 時間車で 5 時間程の所ですが従業員募集に行ってみりました。

広州の空港から今にも落ちそうなローカル線に乗って空港に着きますと教えられた通りに一番いいタクシーを捜して新余市に行きたいんですがとタクシーに乗るにも金額が決まっていなくてまず金額の交渉から始まるんですが高額を提示しても行きたくないと言うんです。どうゆう事かと聞きますと新余市に行くには先程も話しましたが山道を 5 時間走らなければならない訳で、山には最近山賊が頻繁に出没して 4 日前にも 1 人重傷をおっているとの話で断固として行かない、他のタクシーも同様に明日の朝には約束してるものですからどうしても行かなければならないので困ったあげくに公安(警察)に相談しに行った所、1 人護衛につけてくれてタクシーまで説得してくれ、無事送り届けて頂きました。

途中車を止めて用をたしている時も銃を持って回りの様子をうかがっててくれました。ちなみにかなりのお金を要求されると思いましたがタクシー代込みで 250 元でした日本円で 3000 円です。

翌日の朝面接会場へ行くと 30 名の募集にもかかわらず 100 名の面接者が集まっていますこれを面接で 50 名にしました。残った 50 名に筆記試験を行って最終 30 名に絞りこんで採用しました。後に話しを聞くと最初は 200 名位の募集があったそうですが先着 100 名にしたそうです。皆人なつつこく明るかった事を思い出します。ちなみに募集した賃金は試用期間 3 ヶ月間 300 元(3000 円)試用期間後は 3500 元(3500 円)朝、昼、晩、の食事付の条件でした。

3 日程しますとワーカーさん達が到着しまして工場を見せるとびっくりしまして、なにか大きい機械がドカンドカン音を立てて動いている。しかもその横から製品が飛び出してくる初めて見る夢のような機械だと同時に恐怖心で近く寄らないんです。

これを操作、段取り、稼動を覚えさせるまでには本当に苦労しました。当面は 2 次加工といった機械で抜いたプレス部品にねじ切りをしたり製品の洗浄をしたりをさせながら徐々に教えて行くと同時に給料にも差をつけていきこの機械を操作できるようになったら 10 元アップ、これができたら 20 元アップというようにして教育をしていくと一所懸命に覚えてくれました。

そうして稼いだ給料の 8 割は田舎の親への仕送りとなります。家族の助け合いと親を大切にす気持ちは今の日本人に真似はできない事だと関心しました。

こうした事の繰り返しでいろんな地域から徐々に人数を増やしていきましたが中には悪い子達もいまして材料を盗み売ってしまったり、寮のテレビを盗んで消えてしまったり、そういった事もなにかありました。従業員が多くなるにつれてマナーの乱れが生じてきました。機械操作を教えた通りにしないで機械を壊してしまっ

たり怪我をしたり、又ささいな事から出身地別にけんかをしたり、このけんかもどちらが良い悪いではなくて1人が始めると田舎が同じ者同士別れて団体戦になるものですからどんどんさわぎが大きくなり仲裁が非常に大変で私達では止められないので村のガードマンに仲裁に入ってもらいましたが、この仲裁もかなり強引でした。

就業規則はあったもののそれをもっと事細かく変更してゴミはやたらと捨てないから始まってけんか両成敗まで本当に細かい規則をつくり、違反した者は罰金1元から解雇までありますが、それにサインしてもらおう方式をとりました。日常私達では考えられない事が頻繁に起こる毎日でした。

こうして工場を立ち上げると同時に従業員の教育、指導等に明け暮れあつと言う間の1年ではなく4年が経過しました。いざ帰国の命令がでたらあれほど望んでいたにも関わらず、すごく寂しく帰国の日に会社の前に全従業員が両側に並んでくれてその真ん中を歩いた時に涙が止まらなかった事を思い出します。

## ニコニコボックス

5月20日

牛山幸一・大橋正明・小口泰史・尾関秀雄・笠原祥一・小松正二・竹村一幸・林 裕彦・宮沢由己・矢島 進・矢島 實・山岸邦太郎・林 尚孝 心配された天気も良くなり、楽しくゴルフが出来ました。

小松洋司・高木昭好・濱 俊弘・平沢清文・藤森睦美・梅垣和彦 ゴルフに参加された皆さん、御苦労様でした。

山崎典夫 結婚記念日のお花を頂きました。ありがとうございました。

5月27日

中嶋孝一 卓話でお世話になります。

牛山幸一・太田博久・大橋正明・小口哲男・小口雅弘・小口泰史・尾関秀雄・河西洋・笠原祥一・小松正二・高木昭好・武井利夫・塚田昌滋・濱 透・濱 俊弘・林靖高・平沢清文・藤森睦美・宮坂宥澄・宮沢由己・矢島 進・山岡晴男・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫・原 史郎・笠原新太郎 中嶋孝一会員、卓話楽しみにしています。

佐藤有司 第2600地区ローターアクト第31回年次大会に出席して参りました。来年度は諏訪で開催されます。

小口哲男 先月、創業記念月でしたので。

北村正春 創業記念月です。

坂井忠彦 創業141年となりました。

## 出席報告

5/20 会員数52名、出席者26名、出席率50.00%、前々回訂正74.51%

5/27 会員数52名、出席者38名、出席率73.08%、前々回訂正84.62%

2007-2008年度RIテーマ  
ロータリーは  
分かち合いの心  
ROTARY SHARES

